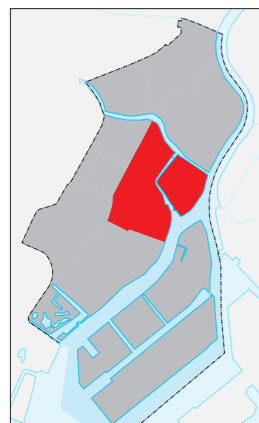


E 現在の町なみ



日本橋茅場町一〜三丁目、日本橋兜町
新富一〜二丁目、入船一〜三丁目、湊一〜三丁目
八丁堀一〜四丁目、新川一〜二丁目

日本橋川と隅田川に接し、中央を亀島川が「く」の字に流れる地域。北（地図上）に位置する兜町には銀行発祥の地などがあり、明治はじめから現在に続き、日本を代表する金融・証券街となっている。地域全体も、企業のビルが建ち並ぶビジネス街として発展してきた。



このエリアは赤い部分。

新富

ビルの間に昔ながらの商店や飲食店、住宅地がある。1872（明治5）年に、歌舞伎の守田座（のちの新富座）が浅草から移転し、芝居の町としてにぎわった。町名は、明治のはじめに歓楽街として栄えた新富原の「新」と、江戸時代からあった大富町の「富」を合わせてつけられた。

入船

新大橋通りをはさんで新富の東側（地図右）にあり、今はビルが建ち並んでいる。町名は、明治はじめに八丁堀と築地川をつなぐ入船川という水路が掘られ、町の西側（左）にあったことに由来する。

湊

1980年代ころまでは印刷関係の町工場が集中していた。その名残で、今でも小さな印刷・製本所が残っている。町名は、江戸時代に各地から荷物を運んできた大型船が荷物のあげ下ろしをする江戸湊として栄えたことからつけられた。

八丁堀

ビジネス街に接していることから、オフィスビルが建ち並ぶ。江戸時代は与力や同心（→p.44）の屋敷が集まっていたので、時代劇にも名前がよく登場する。町名は、江戸城に物資を運んだり、城をこうげきする大型船が近づけないようにするために作られた水路の名に由来する。その水路は、長さが八町（約872m）あったことから八町（丁）堀とよばれ、1880（明治13）年からは「桜川」とよばれたが、1969（昭和44）年に埋め立てられた。

新川

日本橋川、亀島川、隅田川に囲まれた町で、永代橋のたもとや日本橋川沿いに高層マンションが建ち並ぶ。江戸時代は酒問屋の町として栄えていた。町名の由来は、亀島川と隅田川との間を東西に流れていた新川という水路にちなんでいる。新川は1949（昭和24）年に埋め立てられた。

日本橋茅場町

首都高速都心環状線と新大橋通りの間にあり、となりの日本橋兜町と共に、証券会社などがたくさんある、活気あふれるビジネス街になっている。町名の由来は、江戸時代に茅という屋根の材料になる植物をあつかう茅商人がたくさん住んでいたことからつけられた。

日本橋兜町

東京証券取引所を中心とした金融街で、証券会社や銀行がたくさんある。町名は、平安時代の武将、源義家の伝説に由来するといわれる。奥州（東北）を攻めにいく道中、海に鎧をしめて水の神様に願ったところ暴風雨が止んだので、帰り道に兜を埋めて兜塚をつくり神をまつた。ほかにも、いくつかの説がある。



見どころには●印を、重要文化財には★印をつけています。



*ほかのページで紹介している店や場所には、●印をつけている。